

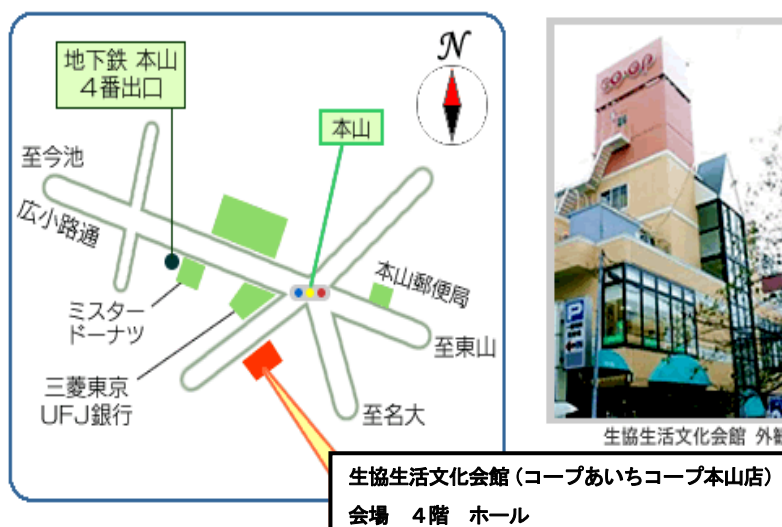
2015年度通常総会(第15回)

下記の通り、2015年度通常総会(第15回)を開催します。

- 日時 2015年5月30日(土) 総会 10時30分～12時15分
- 会場 生協生活文化会館4階ホール
- 議題 第1号議案 2014年度事業報告と決算承認の件
第2号議案 2015年度事業計画と予算決定の件
第3号議案 定款の一部変更の件

<会場への交通>

地下鉄東山線 本山駅下車
4番出口より徒歩2分



2015年度総会記念シンポジウム

「私たちの食と小規模家族農業」

～家族農業を見直し、地域農業のあり方を考える～

○日時：2015年 5月30日(土) 13時～15時30分

○講演：「家族農業と私たちの食」

講師 愛知学院大学経済学部専任講師 関根 佳恵(せいか) 氏

「国際的な飢餓問題にいかに対処すべきか」という問題意識や、全世界的な農業システムの不安定化への懸念から、農民自身がその恩恵を受ける農業として、また持続可能な農業のあり方として、家族農業の価値を見直すべきとの考えから、国連は2014年を「国際家族農業年」としました。しかし、日本ではほとんど話題になりませんでした。今回、なぜ家族農業重視の潮流が生まれたのか、そして、どんな役割や可能性があるのか、まずこの国際的潮流を学び、「食」をささえる地域農業を考えます。



第1号議案 2014年度事業報告と決算承認の件

I. 2014年度事業計画の目標としたことから

第3期中期目標の柱は、研究センターの活動を、地域を軸にした活動にしていくことでした。

第3期中期目標と2014年度に目標としたことから

研究センターが取り組む活動について、地域を軸とした活動をめざし、内容を検討し、支える仕組みづくりをすすめることを目標に、下記の3つのことを具体的に取り組んできました。

- ①地域懇談会・地域のつどいに取り組む中で、地域を軸にした研究センターのあり方と、それを支える仕組みについて検討します。
- ②地域を軸にした活動を会員・市民の参加ですすめることができるための情報の交流・蓄積・発信について、これまでの研究センターのあり方を見直します。
- ③地域と協同の研究センターが取り組む協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場について、そのあり方を整理します。

この計画に対する振り返り

上記の3つの目標に対し、下記のようにすすめてきました。

- ①地域懇談会・地域のつどいの世話人会（実行委員会）を三河・三重・岐阜の地域でテーマを持って取り組み、また尾張の地域で継続して相談する場をつくってきました。
- ②第11回東海交流フォーラムでは、地域の活動で得た情報・知り合うことができた地域での活動をすすめる人達と交流し合い、研究センターニュース増刊号でも紹介しました。
- ③協同組合を専門的に学び合う場として「協同の未来塾」を2014年度開講しました。また、名古屋市立大学で、学生が協同組合について学ぶ場として寄付講義「現代社会と地域と人のつながり」を開講しました。協同組合を支える担い手づくりにつながる学び合いの場を一步前進させることができました。

地域と協同の研究センターが掲げる2016年度に向けた中期目標に対し、年度の計画を目標に沿って実践をすすめ、今後の活動について見通しをつくってきました。

II. 2014年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

1. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

下記の地域での取り組み、パネルの取り組みの振り返り

(1) 地域懇談会・地域のつどい

①三河地域懇談会

三河地域懇談会実行委員会では、世話人会を11回開催し、地域懇談会で取り組む今後の3ヶ年の計画について検討を重ねてきました。その1年目の活動として「私たちのくらしと介護」～地域で絆な老い支度を～をテーマにフィールドワークと学習会を行いました。



「のき山学校」見学交流会

日程	企画	内容
11月20日	「認知症を学び地域でささえよう」学習会	参加の巾を広げようと拡大実行委員会として開催し、クイズや体操等参加型で楽しく学びました。(参加16名)
12月3日	「のき山学校」見学交流会	都市と農村をつなぐ、山里体験プロジェクト「のき山学校」で見学・学習をし、「志多ら」に移動して見学交流しました。(参加16名)

②三重のつどい

「三重のつどい」世話人会では、世話人会を8回開催し、三重地域の多彩な団体・個人の活動を学び、交流する場をつくりました。地域を知ること、地域を元気にする取り組みに学ぶことに、三重大学の先生等新しい参加の広がりの中で取り組んできました。2014年度は特に「みえ次世代ファーマーズ miel」に参加し、農業に取り組む皆さんに注目し、その集まりに参加したり、施設の見学をさせていただき、協力いただいて2015年1月31日（土）に三重のつどい「みえ次世代農家トークバトル」を開催しました。



みえ次世代農家トークバトル

日程	企画	内容
1月31日	「みえ次世代農家トークバトル」	「みえ次世代ファーマーズ miel」に参加する4人の方に、「人と人」「お金」「健康・安全」をテーマに話し合ってもらいました。消費者として地域の農業が持続することの意味合いと方法を考える場になりました。（参加60名）

③岐阜地域懇談会

岐阜地域懇談会世話人会では、世話人会を5回開催し、「岐阜を知ろう！つながろう！」をテーマに世話人で地域の下見も行い、訪問見学交流に取り組んできました。また、これまでの5回の企画を振り返り冊子にまとめました。

日程	企画	内容
5月26日	第6回「美濃白川『佐見とうふ豆の力』の元気なお母さんたちと交流しよう！！」	地元産大豆の豆腐加工施設、昔からのつくり方を伝承する味噌室などを見学し、地域での暮らしについてのお話をお聞きしました。（参加18名）
9月25日	第7回「NPO法人ほのぼのネットワーク代表 高井道子さんとその仲間みなさんに会いに行きましょう！！」	認知症グループホーム「ほのぼの朝日の家」で「認知症にならない、たとえ認知症になっても暮らせる地域づくり」についてお話を聞き、グループホームでおいしいお昼をいただきました。（参加15名）

④尾張地域懇談会

2014年度、尾張地域懇談会が立ち上がりました。尾張地域選出理事と会員有志で4回の世話人会を開催し、尾張地域懇談会はどのような目標、考え方で場を持っていくのか相談しました。具体的には「あいち・あんきネット10周年記念企画」に参加したり、第11回東海交流フォーラムへの尾張地域からの報告について相談したり、「くらしと生産をつなぐ“もの”づくり」の開催について協力したり、参加を呼び掛けてきました。

日程	企画	内容
12月12日	あいち・あんきネット10周年記念企画	生活協同組合コープあいち、名古屋第一法律事務所、税理士法人OTAが協力し、高齢者のくらしの安心・安全と生きる権利を守る事業をすすめることを目的に愛知県の認証を受け設立したNPO法人です。2014年度は設立10周年に当たり、記念企画が持たれました。

(2) 4つの領域でのパネル

①食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

「私たちは安全安心な食べ物を食べ続けていけるか？」をテーマに世話人会を7回開催し、話し合いを重ね、継続できる農業のあり方を調査することを目的に、10月1日に農業生産法人 株式会社「中甲（なかこう）」の調査見学会を行いました。また2014年が「国際家族農業年」であることを契機に、「家族農業」に関する学習会ができないか、検討してきました。



株式会社「中甲」調査見学会

日程	企画	内容
10月1日	農業生産法人 株式会社「中甲（なかこう）」調査見学会	稲刈り作業を見ながら、大規模な農業の現場を紹介いただき、私たちの食を支える農業にたずさわってのお話をお聞きしました。（参加10名）

②地域福祉を支える市民協同パネル

地域福祉について「地域でもっとよく生きられるように（ウエルビーイング）」と捉え、世話人会を7回開催し、支える市民協同とはどういうことかを具体的事例（瀬戸・窯のひろば）を取材しながら問題点を探ってきました。東日本大震災に関わって愛知県での被災者支援活動を学び、岐阜の中山間地域の様子を報告いただき学び合ってきました。世話人会で取り上げた内容は、ニューズレター第7号（10月22日発行）、第8号（3月17日発行）を発行し伝えるようにしました。今後は成果をまとめていけるよう相談しています。

地域福祉を支える市民協同パネルで取り上げた内容

地域福祉を支える市民協同という問題意識はどこにあるか。コープあいちの相談センターについて。「窯のひろば」の訪問調査。瀬戸市商店街の探索。瀬戸市街地を見る。

「イギリスにおける自治体内分権の展開と課題」 — ブリストル市の近隣委員会を事例に一。各務原市社会福祉協議会八木山「ささえあいの家」。協同集会 in 東海の課題をパネルにつなげる

震災被災者愛知県内避難者支援について。あいちでの実践状況から市民協同に迫る。岐阜県郡上市明宝村小川集落訪問。おせっかいプロジェクトの聞き取り。窯のひろばの活動や法人をどうみるか。等

③研究フォーラム職員の仕事を考える

2014年度は、4回にわたって企画した組合員のおしゃべり会に協力いただいたみなさんから、その後の思いを聞く「おしゃべり会」を6月19日名古屋都市センター会議室で開催しました。また12回の世話人会の中で、地域担当の仕事について、コープあいちの職員2人から、コープぎふの職員1人から、コープみえの職員1人からヒアリングを行いました。ヒアリングした内容は以下のような内容です。

①今はどのような仕事を担当されていますか？②生協の職場について感じてみえることはありますか？

③仕事でのやりがいや楽しみは何でしょうか？④その他生協の仕事について感じてみえること、なんでも結構ですのでお聞かせください。

ヒアリングを行ったことで、特に経験の長い職員の力をどのように発揮いただくか、業務の分業が進んでおり、総合力をどうたかめるかが課題になることがわかり、今後、その内容についてまとめていきます。



「新名古屋火力発電所」見学

④環境（自然の環 人の輪）

東海の3生協で取り組んでいる環境活動について、世話人会を4回開催し、それぞれの生協から職員が参加し、情報交流を重ねてきました。私たちのエネルギーがどうあるべきか、まずは「現状を見て考えていこう」と、中部電力の発電所見学に取り組みました。

日程	企画	内容
4月11日	「碧南火力発電所」見学	国内最大のベース電源として昼夜運転している石炭火力発電所でしたが、二酸化炭素の排出量が多く、あまりにも大規模化、集中化した施設でした。（参加8名）
7月16日	「武豊火力発電所・メガソーラーたけとよ」見学	武豊火力発電所は、電力が不足する時に動かす設備でした。隣に再生可能エネルギーの発電施設・メガソーラーもあり見学し、中部電力の考え方を学びました。（参加19名）
11月7日	「新名古屋火力発電所」見学	輸入の液化天然ガスLNGを燃料とした、エネルギー効率がよく、大気汚染物質の排出が少ない発電所でした。（参加15名）

2. 協同組合の理念・役割・あり方の探究

(1) 生協の（未来の）あり方研究会

「生協の（未来の）あり方研究会」は、2013年10月に「未来を拓く協同の社会システム」を発刊し、関

わって2014年4月20日に研究集会を開催し、ディスカッションの場を設けました（参加38名）。そして2014年度、生協の未来展望を模索しつつ、そのあり方への次の提言を目指して、協同組合セクター、あるいは非営利協同セクターという視野も置きながら、定例会を6回開催し、共同研究を進めてきました。その中で2015年度開催する研究集会を相談してきました。

(2) 総会記念シンポジウム

総会記念シンポジウムは、5月30日（金）に「消費税アップと私たちの暮らし」をテーマに、中央社会保障推進協議会事務局長山ロー一秀氏を講師に開催しました。

参加者の感想では「具体的で大変参考になりました。一層の地域のささえあいの重要性を痛感しました。」「消費税の問題点がよくわかりました。」等いただき、消費税アップの核心に迫ることができた内容になったのではないかと考えます。（参加81名）

(3) 第11回東海交流フォーラム

2015年2月7日（土）「よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり！」～新しい力とともに未来を探る～をテーマに第11回東海交流フォーラムを開催しました。「多彩に地域で繰り広げられる協同組合・市民協同組織・市民の活動を地域ごとに深め合いながら、持ち寄り、交流し、活動を学び合い、励まし合い、さらなる実践の起点をつくり合う」ことを柱に、今年は4つの地域（岐阜・三河・尾張・三重）ごとで実行委員会を開催し、報告内容を準備しました。地域のつながりの中での多彩な実践が報告され、地域の協同活動が広がる契機となりました。（参加111名）

講演「よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり！」～新しい力とともに未来を探る～

講師：朝倉 美江氏（金城学院大学人間科学部教授）

地域で取り組まれている実践の報告

報告①地域と共に生きる暮らし 報告者：山縣市地域おこし協力隊 中村大祐氏

報告②志多ら&てほへが受け継ぐ地域文化と新たな地域創造への挑戦

報告：NPO法人「てほへ」副理事長 大脇 聡氏

報告③八百津町久田見地区 買物支援の取組み 報告者：生活協同組合コープぎふ多治見支所支所長 辻 善一氏

報告④地域課題の解決に向けての新しい連携

～「大規模団地等における孤立防止推進事業」における地域とコープあいちの連携～

報告者：社会福祉法人 名古屋市名東区社会福祉協議会 事務局長 内山 和美氏

報告⑤みえ次世代ファーマーズ miel(ミエル)に関して 報告者：石本果樹園 石本 慶紀氏



第11回東海交流フォーラム

《第11回東海交流フォーラムの感想から》

「私の勤務先でも高齢化がすすんでいる地域があり、様々な課題があります。こうした課題に私が、私達が、何ができるのか、何をすべきなのかを考えて地域に目を向けて取り組みを進めていきたいと感じています。」
「買物難民—近くに店がないから、買物が出来ないだけでなく、人とのつながりがなく、独居により外出や食欲など意欲を失うこと。人は、自分のためだけでは生きられない。誰かのために生きているという実感を求めているのかなと思いました。」

(4) 国際協同組合デー記念行事

7月4日（金）「ワークライフプラザれある」にて「協同組合の”いま”と”みらい”」～地域社会の問題解決に取り組む協同組合の実践から考える～をテーマに、愛知県の協同組合の取り組みとして、実行委員会をつくり、記念行事を開催しました。厳しい情勢の中、協同組合が、社会と時代が求める課題にむかって組合員参加に基づいて進める事業と取り組み、さらに多くの協同組織とともに、社会の様々な問題解決を協働で進める活動を紹介しました。（参加92名）

3. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組みました。

2014年度支援を実施した生協には、①コープあいち、②東海コープ事業連合、③コープあおもり、④社会福祉法人「協同福祉会」あすなら苑、⑤エフコープ、⑥コープ九州事業連合、⑦コープおきなわなどでの支所長や店長のゼミナール、職員の自己発見塾等があります。支援により職員の変化、事業実績での変化の報告があります。

《マイスターコース修了後レポートから》

「マイスター研修を振り返ってみると私にとって地域担当の原点とは組合員と暮らしのこと、生協商品のこと、困っていること、何であれ交流できることに喜びを感じられることであり、そこを原点に仕事をしていくことが共同購入マイスターだと思います。」

(2) 共同購入事業マイスターコース

2014年度企画委員会の委員が異動の関係で入れ替わり中、これまで積み上げてきた内容を継続しながら、打ち合わせを重ね、第六期のマイスターコースを開講しました。(24名受講)

(3) 組合員理事ゼミナール

2014年度から2015年度の2年間で、より充実した内容にして第3期組合員理事ゼミナールを開講しています。かつてゼミナールを受講された各生協の先輩理事のみなさんと事務局で世話人会を構成し、各回の内容や進行について相談し、ファシリテーターも担っています。(19名受講)

《第5回の振り返りから》

「少しずつですが、自分の中にいろいろな知識が落とし込まれていくことを実感しています。」

(4) 協同の未来塾

協同組合・生協運動の核となる未来の担い手として活躍されることを願い、生協運動に同じ志を持つ仲間の学びの場として第一期の「協同の未来塾」を開講しました。受講されたみなさんにとって、協同組合を学び知的な関心が広がる貴重な場となりました。(19名受講)

《修了後の振り返りから》

「過去の歴史を学ぶ事は非常に貴重な経験であった。やはり自身の生協の起源を知ること、どう自身が考えるかの軸が出来た気がした。毎回、日常の業務から立ち止まってみんなで考える事できた事は貴重でした。」

(5) 名古屋市立大学での寄付講義

名古屋市立大学で、2014年度下期、協同組合に関わる寄付講義「現代社会と地域と人のつながり」を協同組合、協同の組織の13人の方に講師を担当いただき、打ち合わせの会を3回行い、準備をして開講しました。90人の学生が毎回熱心に受講し、協同組合への関心を上げました。振り返りの会では、2015年度も開講することを確認し、準備をすすめてきました。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

(1) ものづくりの思いを語る会の支援

「ものづくり」には、企業理念が一番大切ということを話し合ってきました。2014年12月13日に、第27回ものづくりの思いを語る会を開催し、「くらしと生産をつなぐ“もの”づくり」の会の相談も行き、2月14日(土)共催することを確認し、当日の運営に協力しました。

(2) 「くらしと生産をつなぐ“もの”づくり」の開催

生産者と消費者が一緒になり、くらしと生産をつないで“もの”づくりを考える場を準備し、2015年2月14日(土)に開催しました。多彩なメンバーが参加し、今後の“もの”づくりを考える契機となりました。

(3) 第三期研究奨励助成報告会の開催

2014年度に行った第三期研究奨励助成で、研究活動に取り組みされた5組の皆さんの報告会を、11月8日(土)に岐阜、12月6日(土)に名古屋で開催しました。(参加40名)

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

地域と協同の研究センターでの取り組み情報の紹介を中心に、研究センターNEWSを毎月発行しました。また日頃の活動についての速報を、ホームページやフェイスブックに掲載してきました。

増刊・地域と協同の研究センターNEWS「地域と協同」編集委員会では、情報が活かされる広報を目指して、検討を重ねました。第2号は第10回東海交流フォーラムを特集し、よりテーマを深めるために座談会を開催しました。あわせて、第3号の発行準備をしました。

6. 研究センターの組織づくり

パネル、地域懇談会等の取り組みを広げ、また、情報発信についても工夫を重ね、地域と協同の研究センターを知る機会を増やし、地域と協同の研究センター会員のお誘いに取り組んできました。

2014年度は団体会員での加入やパネル・地域懇談会での加入があり、個人正会員で11人、個人賛助会員では生きがいコープ東海等から3人の新規加入がありました。しかし、長期にわたり地域と協同の研究センターの活動に参加できないことから等の理由で退会される方も個人正会員で11名、個人賛助会員で9名、団体会員で1団体あり、年度として個人正会員で△6名、団体会員で△1団体という結果になっています。

7. 研究センターNEWS（ニュース各号の主な記事）

	巻頭	パネル発・地域発・会員発の発信
116号 2014 4/25	地域(団地)に住むことの大切さ 地域と協同の研究センター顧問 水野隼人氏	会員の交流の広場 「第10回東海交流フォーラム に参加して」 とうかい食農健サポートクラブ 交流・学習会 「大学生の食の“いま”」報告 研究センターならではの「学び合い」の場 報告
117号 2014 5/25	中山間地域の問題と生協 地域と協同の研究センター会員・元生活 協同組合コープぎふ職員 熊崎 辰広氏	「未来を拓く協同の社会システム」発行記念研究集会「生活協同組合の今と未来」 環境パネル「中電 碧南火力発電所見学」 新年度に向けて領域別 テーマごとの交流・地域での交流 地域別懇談会、パネルでの検討状況
118号 2014 6/25	地域づくり・つながりを 協同の力で 地域と協同の研究センター代表理事 西川幸城氏	【特集】第14回研究センター通常総会報告 総会記念シンポジウム『消費税率アップと私たちの暮らし』 岐阜地域懇談会報告 美濃白川「佐見とうふ豆の力」見学交流会 国際協同組合デー記念企画「協同組合の“いま”と“みらい”」報告
119号 2014 7/25	いつか、来た道 愛知大学名誉教授・地域と協同の研究セ ンター顧問 高橋 正氏	2014年国際協同組合デー記念行事基調講演「協同組合の“いま”と“みらい”」 「研究フォーラム職員の仕事を考える」パネル活動報告 とうかい食農健サポートクラブ “五感を重視した食育ワークショップ”の紹介
120号 2014 8/25	学問研究における実践を通じた認識と理 論との結合 三重大学人文学部准教授 前田定孝氏	岐阜県協同組合間提携協議会 主催「協同組合を考える集い」 報告 「地域福祉を支える市民協同」を活動現場で探す “窯のひろば”を訪問—地域福祉を支える市民協同パネル
121号 2014 9/25	見過ごせない 磁気浮上型「リニア新幹 線」の見切り発車 名古屋大学名誉教授 植植新氏	環境パネル「中部電力武豊火力発電所メガソーラーたけとよ」見学 三重のつどい—8月8日 第1回オープンカフェ報告「TPPと食の安全」 取材記事—愛情たっぷり 地元の食材を使った市産市食の給食(新城)
122号 2014 10/25	私と 協同組合との関わり 三重大学名誉教授 大原興太郎氏	岐阜のつどい報告 NPO法人ほのぼのネットワーク代表 高井道子さんとそ の仲間のみなさんに会いに行きましょう 協同集会 in 東海—第3分科会「福祉の明日 コミュニティケアの創造」
123号 2014 11/25	2014協同集会in東海「地域で発見 協同 って何？」～人に出会い、つながり、協同 する～を終えて思うこと 永戸亮氏 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)	食と農パネル 農業生産法人株式会社「中甲」地域農業を担う事例に学ぶ 協同集会 in 東海—第5科会「自然がつなぐ人と人 都市と農村」人と自然を 含む資源の広域的なガバナンスに基づく協働と循環経済の可能性 「とうふ工房いしかわ」と「麩屋銀」見学会の紹介
124号 2014 12/25	農業・農協「改革」は誰の為か？ 農業・農協問題研究所三重支部 地域と 協同の研究センター理事 村上一彦氏	環境パネル 中部電力新名古屋火力発電所見学報告 第三期研究奨励助成報告会報告 三河地域懇談会 拡大実行委員会 「認知症サポーター養成講座」
125号 2015 1/25	改革の先にあるもの JJA あいち尾東代表 理事組合長 JA 愛知中央会会長 吉田濱一氏	三河地域懇談会 フィールドワーク「のき山学校見学」報告 2014年度上期 名古屋私立大学 協同組合寄付講義 その後 農農研東海支部第14回研究例会～農業・農協の改革とTPPについて問う～
126号 2015 2/25	協働・夢プロジェクト5周年を迎えて 協働・夢プロジェクト専務理事 今井信彦氏	共同購入事業マイスターコース 第五期生 実践交流会 報告 地域福祉を支える市民協同 パネル活動報告 会員の活動 表現舎お披露目イベント「表現祭」の報告から

Ⅲ 組織・機関運営のまとめ

1. 第14回通常総会を、2014年5月30日（金）に、生協生活文化会館4階ホールにて開催しました。 出席状況は、次の通りです。

	出席者	実出席	委任	書面表決	会員数
個人会員	165	64	2	99	234
団体会員	12	8	0	4	16
合計	177	72	2	103	250

各議案の採決結果は下表の通りです。

過半数の賛成で、2013年度事業報告と決算承認の件（第1号議案）は承認され、2014年度事業計画と予算決定の件（第2号議案）、第三期中期目標と計画（2014年度～2016年度）の件（第3号議案）は過半数の賛成で提案通り決定されました。第4号理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件は、理事会からの推薦者35名の理事の立候補と、2名の監事の立候補があり、投票の結果、過半数の信任をもって選出されました。第5号議案定款の一部変更の件は、圧倒的な賛成多数で決定されました。

<議案毎の採決結果>

	議案	賛成	反対	保留
第1号議案	2013年度事業報告と決算承認の件	明らかな多数	0	1
第2号議案	2014年度事業計画と予算決定の件	明らかな多数	0	1
第3号議案	第三期中期目標と計画（2014年度～2016年度）の件	明らかな多数	0	2
第5号議案	定款の一部変更の件	明らかな多数	0	1

2. 理事会の開催

2014年度、下表の通り理事会を開催しました。

	回数	開催日	主な議題
13年度	第7回	4月26日(土)	1. 第14回総会議案書について 2. 第14回総会の運営について 3. 総会記念シンポジウムについて
	第1回	5月30日(木)	1. 2014年度の役員体制について 2. 2014年度の理事会日程について 3. 2014年国際協同組合デー記念行事について
2014年度	第2回	7月12日(土)	1. 第14回総会・総会記念シンポジウムのまとめ 2. 2014年国際協同組合デー記念行事の振り返り 3. 2014年度の計画に関わって
	第3回	9月20日(土)	1. 第11回東海交流フォーラムについて 2. 2014年度の計画に関わって ①第三期研究奨励助成報告集の発行と報告会について②名市大寄付講義について等
	第4回	12月20日(土)	1. 第11回東海交流フォーラムについて 2. 地域と協同の研究センターにおける 規程・手順について 3. 2014年度計画の振り返りと2015年度計画について
	第5回	3月28日(土)	1. 2014年度の振り返り 2. 2015年度計画について 3. 2014年度の収支と活動計算書について 4. 2015年度通常総会（第15回）の準備について

常任理事会は、2014年度、次の通り計11回開催しました。

2013年度第11回4月4日、第12回5月14日

2014年度第1回6月26日、第2回8月4日、第3回9月5日、第4回10月10日、第5回11月14日
第6回12月6日、第7回1月29日、第8回3月3日、第9回3月19日

3. 会員組織

会員の異動は次の通りです。2014年度末の会員数は、正会員個人229人・団体16団体、賛助会員個人92人・団体2団体となりました。（2015年3月20日現在）

	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
2014年3月21日期首	235	17	92	2
入会	11	0	3	0
退会	11	1	9	0
移動	▲6	0	+6	0
2015年3月20日期末	229	16	92	2

4. 法人としての行政への対応など

①特定非営利活動促進法に基づき、2013年度事業報告書を名古屋市に提出しました。（2014/6/18）

②法務局に資産の総額変更登記と代表権を持つ理事の登記を行いました。（2014/6/18）

③2013年度決算に基づき税務申告を行い納税しました。納税額は次の通りでした。

国税	法人税	0円	（課税対象となる事業所得への課税税率18%、赤字決算のため0）
地方税	県民税	21,000円	（法人税の5%+均等割2万円+あいち森と緑づくり税均等割）
	事業税	0円	（所得金額の5%、赤字決算のため0）
	市民税	47,500円	（法人税の11.685%+均等割47,500円）
	消費税	434,100円	（2007年度より、納税義務者となりました。）

※特定非営利活動法人ではありますが、税法上の収益事業により発生した所得については課税されます。

IV 2014年度決算報告

1. 決算の概要

2014年度収益費用バランス

(単位 千円、端数切り捨てで表示しています)

	収益の部		費用の部		収支差額
	前年度繰越金	15,343			
経常収支	受取会費	20,192	管理費	9,381	10,818
	(うち維持会費)	18,060			
	事業収益	13,682	事業費	23,811	▲10,129
	(うち学習研修事業収益)	12,829	(うち学習研修事業費用)	9,515	
	受取寄付金	600			
	その他収入	231			
	当期収入計	34,705	当期支出計	33,193	1,512

会費収入は20,192千円(個人会費737千円、団体会費1,260千円、賛助会費135千円、維持会費18,060千円)でした。費用の部では、特定非営利活動法人法改正にともない、昨年総会において会計書類のうち「収支計算書」を、活動に係る事業の実績を表示する「活動計算書」とし、同時に「収入」を「収益」に、支出を「費用」に改めました。従来管理費として一括計上していた費用を、事業に係るものと、管理に係るものを区分して計上することにより、決算報告は活動実態により即した内容となります。

活動計算書について

平成24年4月の特定非営利活動推進法改正により、行政(名古屋市・市民活動推進センター)から、2014年度より指導があり、これまでの「収支計算書」を「活動計算書」に変更することとしました(昨年総会で定款変更決定)。その主旨に沿い、2014年度より活動計算書として会計を行いました。2014年度の決算は11ページで活動計算書として報告いたします。また17ページの2015年度予算も活動計算書として提案いたします。

活動計算書の様式変更に伴う主な変更点

- ①収入は「収益」、支出は「費用」と語句を変更しています。
- ②これまで、研究センターの理事会、総会に関わる費用は、運営費という科目をつくり計上してきましたが、今後は事業費と管理費で計上します。
- ③事業の科目を整理します。
これまでの事業を整理し、活動がより明確に区分され、定款第5条の事業内容に沿って以下の3つの事業とします。各事業収益は一括して計上します。
 - 1)「学習研修事業」=学びと気づき支援+学習研修(マイスター、理事ゼミなど)…定款5条(1)にあたる
 - 2)「調査研究交流事業」=学習交流(地域懇談会)+調査研究(パネル、東海交流フォーラム)…定款5条(2)(3)にあたる
 - 3)「情報サービス事業」=NEWS、報告集発行など広報など…定款5条(4)(5)にあたる
 ※事業ごとの収益と費用について、添付資料「2014年度の財務諸表の注記」で報告します。
- ④事業の費用計上は、これまで一括でしたが、各事業の人件費、その他の経費とします
 - ・人件費は、これまで管理費の事務局スタッフの給与、通勤交通費、法定福利費等を職員給与、通勤交通費、法定福利費として「従事割合」で各事業費と管理費に按分して計上します。
 - ・その他の経費の科目は、諸謝金(講師などの謝礼)、業務委託費、事務用品費、通信交通費、会議費、雑費の科目とします。
 - ・事務用品費は、用紙、印刷代は枚数のカウントで、各事業費と管理費に「使用割合」で按分します。

2. 2014年度決算書

2014年度の貸借対照表・活動計算書・財産目録は、次の通りです。

2014年度貸借対照表 (単位 円)

2015年3月20日現在

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金			
	小口現金	357,774	
	普通預金	14,613,976	
	郵便振替口座	2,951,309	
			17,923,059
	未収金		1,190,124
	仮払消費税		0
	流動資産合計		19,113,183
2 固定資産			
	什器備品		0
	ソフトウェア		0
	固定資産合計		0
	資産合計		19,113,183
II 負債の部			
1 流動負債			
	未払金		1,471,457
	未払法人税		68,500
	未払消費税		717,500
	仮受消費税		0
	流動負債合計		2,257,457
2 固定負債			
	長期借入金		0
	退職給与引当金		0
	固定負債合計		0
	負債合計		2,257,457
III 正味財産の部			
1 期首正味財産			
		15,343,268	
2 当期正味財産増減額			
		1,512,458	
	正味財産合計		16,855,726
	負債及び正味財産合計		19,113,183

2014年度活動計算書 (単位 円)

2014年3月21日~2015年3月20日

(経常損益の部)	2014年度決算	2014年度損益の内容
I、経常収益の部		
1. 受取会費	20,192,500	
1)個人会費	737,500	正会員50人増目標⇒正会員▲6人
2)団体会費	1,260,000	団体会員1団体増目標⇒団体会員▲1団体
3)賛助会費	135,000	賛助会員20人増目標⇒賛助会員
4)維持会費	18,060,000	
2. 受取寄付金	600,000	
受取寄付金	600,000	
3. 事業収益	13,682,188	
1)学習研修事業	12,829,616	学びと気づき支援、マイスターコース、協同の未来塾等
2)調査研究交流事業	781,267	地域懇談会、パネル、東海交流フォーラム参加費等
3)情報サービス事業	71,305	書籍販売等
4. その他収益	231,116	
1)受取利息	1,436	
2)雑収入	229,680	コピー使用料等
経常収益合計(a)	34,705,804	
II、経常費用の部		
1. 事業費	23,811,703	
1)人件費	13,518,103	人件費を所要時間数で按分
職員給与	11,337,339	
通勤交通費	601,105	
法定福利費	1,579,659	
2)その他経費	10,293,600	
諸謝金	1,378,894	講師料等
業務委託費	1,505,935	
事務消耗品費	1,098,887	事務用品・印刷代実費等
通信交通費	3,429,060	地域懇談会・パネル世話人会交通費等
会議費	2,442,381	会場費等
雑費	438,443	
2. 管理費	9,381,643	
1)人件費	5,793,474	
役員報酬	0	
職員給与・賞与	4,858,860	理事会・常任理事会・日常管理のための人件費
通勤交通費	257,617	
法定福利費	676,997	
2)その他経費	3,588,169	
厚生費	113,383	
業務委託費	717,793	
事務消耗品費	75,254	事務用品・印刷代実費等
備品費	57,526	
研修調査費	126,876	職員研修費等
新聞図書費	125,664	農業新聞、日本経済新聞等
広報費	0	
通信交通費	753,681	理事会・常任理事会交通費
施設・設備利用料	622,224	事務所賃料
租税公課	662,536	消費税、市民税、県民税
会議費	159,499	理事会・常任理事会会場費等
渉外費	20,408	諸会費
雑費	153,325	振り込み手数料等
経常費用計(b)	33,193,346	
当期経常増減額(a)-(b)	1,512,458	
(正味財産増減の部)		
III、正味財産増加の部		
特別収益	0	
正味財産増加の部合計	0	
IV、正味財産減少の部		
特別費用	0	
正味財産減少の部合計	0	
当期正味財産増減額	1,512,458	
前期繰越正味財産額	15,343,268	
次期繰越正味財産額	16,855,726	

科目	内 訳	金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	現金	現金手元有高	357,774
	普通預金	三菱東京UJF銀行	14,613,976
	郵便振替	会費振込口座	2,951,309
			17,923,059
未収金	大学生協東海事業連合		300,000
	コープ九州事業連合		191,980
	コープあおもり		304,034
	コープおきなわ		104,480
	あすなら苑		198,910
	パルシステム茨城		90,720
			1,190,124
仮払消費税			0
流動資産合計			19,113,183
2 固定資産			
	什器備品		0
	ソフトウェア		0
固定資産合計			0
資産合計			19,113,183
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	コープあいち		1,124,015
	東海コープ事業連合		45,360
	コープみえ		8,420
	愛知県労働者共済生協		24,000
	業務委託・給与		239,050
	理想科学		15,492
	東海共同印刷		15,120
			1,471,457
仮受消費税			0
未払法人税	未払法人税		68,500
未払消費税	未払消費税		717,500
流動負債合計			2,257,457
2 固定負債			
長期借入金			0
退職給与引当金			0
固定負債合計			0
負債合計			2,257,457
III 正味財産			
期首正味財産			15,343,268
当期正味財産増減額			1,512,458
正味財産合計			16,855,726
負債及び正味財産合計			19,113,183

以上、2014年度事業報告、決算報告とします。

2015年4月25日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城 (コープみえ理事長)
専務理事 向井 忍 (コープあいち参与)
常任理事 牛田 清博 (コープあいち執行役員)
常任理事 河原 洋之 (コープぎふ執行役員)
常任理事 竹内 輝彦 (コープみえ執行役員)
常任理事 小木曾 洋司 (中京大学現代社会学部准教授)
常任理事 向井 清史 (名古屋市立大学特任教授)
理事 朝倉 美江 (金城学院大学人間科学部教授)
荒井 聡 (岐阜大学応用生物科学部教授)
石橋 一郎 (大学生協東海事業連合理事会室長)
伊藤 佐記子 (コープぎふ組合員)
岩橋 良直 (JA愛知中央会常勤監事)
岡田 祐成 (社会福祉法人なごや平和福社会理事・施設長)
川崎 直巳 (コープぎふ理事長)
上林 美也子 (コープぎふ副理事長)
黒川 富子 (社会福祉法人名北福社会)
駒井 義明 (東海コープ事業連合執行役員)
近藤 宏一 (コープあいち労働組合書記局次長)
近藤 充代 (日本福祉大学経済学部教授)
坂本 龍雄 (中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科教授)
下里 玉美 (コープあいち理事)
田所 登代子 (コープあいち理事)
田邊 準也 (コープあいち顧問)
長井 知津代 (コープみえ理事)
夏目 有人 (コープあいち理事長)
成瀬 幸雄 (南医療生協専務理事)
野田 輝己 (農業経営)
橋本 吉広 (大学非常勤講師)
平野 哲至 (会社コンサルタント)
森島 和子 (コープみえ理事)
村上 一彦 (農業・農協問題研究所三重支部)
山村 まさこ (コープぎふ理事)
幸松 孝太郎 (関西学院大学 都市創造研究センター 客員研究員)
兼子 厚之 (研究センター事務局)
事務局長 大島 三津夫 (研究センター事務局)

第2号議案 2015年度事業計画と予算決定の件

I. 2015年度事業計画の柱

第3期中期目標で確認した2015年度計画について、2014年度の活動とその結果を踏まえ、下記のように取り組んでいきます。

地域を軸とした活動を柱として、重点に取り組み、そうした中で、地域と協同の研究センターの今後のあり方が展望できるようにします。

- ①地域を軸とした研究センターのあり方、それを支える仕組みを形にし、会員の参加でつくる学び、交流し、研究する場が安定してつくられていくことを目指します。
 - i. 4つの地域（三河、三重、岐阜、尾張）で、地域懇談会世話人会を定期的に開催します。
 - ii. 世話人会で相談し、多彩な地域の取り組みをつないでいきます。
- ②地域を軸とした研究センター活動につながる、研究センター会員・市民が求める情報の交流・蓄積・発信を確立していきます。
 - i. 地域と協同の研究センターがつくる場で得られた情報は、会員に向け、また外部に向け、催す企画や情報発信の媒体を適切に活用し、発信します。
 - ii. 発信は、研究センターNEWS増刊号では、核としてまとめた時々の情報を発信し、ホームページ、フェイスブックを活用し、その時々速やかな発信に取り組みます。
 - iii. そのような活動の中で、地域で地域と協同の研究センター会員の加入をすすめます。
- ③この間の協同組合・市民協同組織の理念と役割を深め合う場、学び合う場を継続し、より多くの会員の声をつなげ、充実させます。

こうした①②③の具体化した活動を通じ、2015年度はTPP、食料問題、地域福祉をテーマに、必要とされる情報の発信（提言）について地域と協同の研究センター理事会で検討し、すすめていけるようにします。

II. 2015年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

1. 協同組合の理念・役割・あり方の探究と情報の発信

(1) 地域懇談会

地域を軸とした研究センター活動として、4つの地域（三河、三重、岐阜、尾張）で会員がそれぞれ関心ある情報を持ち寄り、交流し、学び合い、研究活動をすすめる場として名称を地域懇談会とします。またその地域懇談会活動を中心になってすすめる役割を担う会員組織を世話人会という名称とし、それぞれの地域ごと相談し、地域懇談会の取り組みをすすめます。

①三河地域懇談会

「私たちのくらしと介護」～地域で粹な老い支度を～をテーマに、3ヶ年計画の2年目として、世話人会で相談し、取り組みをすすめます。具体的には、6月末から7月に介護保険の改定や福祉の現場の状況を学びつつ、地域福祉に関わる情勢についての学習会を計画します。また、フィールドワークとして「よって横丁見学会」「六条瀧の見学会」などを世話人会で検討し、より多くの会員参加で取り組みます。

②三重地域懇談会

これまでの福祉をテーマにした取り組みを継続しながら、四日市でのサロンの取り組み、鈴鹿市での障害者福祉として取り組まれている作業所での農業の実践等、地域の調査活動に取り組みます。また、環境問題としてエネルギーをテーマに、木材資源を原料にした三重県内のバイオ発電所の調査や、「みえ次世代ファーマーズmiel」に参加する浅井農園が取り組む辻製油の工場排熱を利用したミニトマトの栽培など、継続して調査をすすめていきます。

③岐阜地域懇談会

「岐阜を知ろう！つながろう！」をテーマに、引き続き岐阜地域懇談会で岐阜地域の調査・研究活動を行いながら、東海交流フォーラムの地域版として、岐阜地域の報告を中心に、コープぎふ職員を中心に呼びかけ、開催

を相談します。地域の調査活動は、5月に郡上市名宝小川地区に地域の取り組みを学ぶ調査活動を行います。8月には、小水力発電の導入で農業用水農業協同組合をつくった石徹白の訪問調査を世話人会で相談し、計画する予定です。

④尾張地域懇談会

尾張地域で開催される協同の取り組みについて尾張地域懇談会として参加しながら、この地域での協同組織のつながりをどう支援するか話し合い、そうした中で尾張地域懇談会の今後のあり方について検討し、取り組みをすすめていきます。

(2) 4つの領域での研究フォーラム

「情報交流しながら、調査研究を促進する」場として設置したパネルの場について、会員の関心に基づき自由に研究をすすめ、より積極的に得た情報について調査し、深めて発信を行う役割も考慮し、名称を研究フォーラムと改称してはどうでしょうか。こうした名称も含め、これまでパネルとして設置してきた4つの領域での場を継続し、参加する会員にとってよりよい場となるよう検討し合い、すすめていきます。

①「食と農」

継続できる農業のあり方について学習会や調査会を踏まえて、2015年度は「食と農」について、生産者や協同組合の皆さんに参加いただき、考えあう場をつくります。それに向けて各生協の「食と農」の取り組みを支援できるように情報を寄せ合い、調査活動を継続して行っていきます。2015年度はまず「家族農業」をテーマに、今後の「食と農」を考え合う場をつくり、世話人への参加を広げていきます。

②「地域福祉を支える市民協同」

これまでを継続し、「地域福祉を支える市民協同とは」という課題を探求していきます。そのために、瀬戸・窯のひろばとNPO法人エム・トゥ・エムの担い手や動きに着目し、意見交流を重ね、報告書としてまとめ、情報発信できるようにします。また岐阜や三重での市民協同活動にも注目し学んでいきます。

③「職員の仕事を考える」

2014年度に地域担当のみなさんからヒアリングした内容を、まとめていきます。また2015年度は、共同購入事業のセンター・支所でリーダー・エリアマネージャー・グループ長として活動される職員の皆さんからのヒアリングをすすめていき、今後の生活協同組合で働く意味・価値、その仕事のあり方について考え合っていきます。

④「環境」

各生協・各地域の環境活動を応援できるよう、一步すすんだ情報を共有しながら、情報の集積をはかります。2014年度に引き続き、「エネルギーを考える」をテーマに、4月に浜岡原発見学を行います。また、再生エネルギーについて、踏み込んで学び、どう地域で住民が関わり、活かしていくかについて、見学と座学を組み合わせ合わせた取り組みを検討していきます。

(3) 研究センター全体での取り組み

①生協の（未来の）あり方研究会

7月26日（日）研究集会を開催します。また2016年度に向けて研究成果を発刊できるよう定例の研究会を開催し、準備をすすめます。

②総会記念シンポジウム

私たちを取り巻く社会との関係で、2015年度は「小規模家族農業が私たちの食を支える」～家族農業を見直し地域農業のあり方を考える～をテーマに「食と農」のあり方を考え合い、今後の食のあり方、農業のあり方について地域と協同の研究センターでの取り組みの第一歩とします。

③第12回東海交流フォーラム

協同を基礎にした市民活動等、これからの社会のあり方を展望し、人のつながり、協同の中で取り組まれている幅広い地域の活動を、各地域懇談会で寄せ合い、地域で実行委員会をつくり相談し、全体でまとめる実行委員会を開催し準備していきましょう。また生協職員の参加を広げましょう。

④国際協同組合デー記念企画

愛知の地域で、生活協同組合・農業協同組合等多様な協同組合の活動交流と連携の場として、実行委員会をつくり記念行事を開催していきましょう。

⑤協同組合学会岐阜大会の開催支援

2015年度開催される協同組合学会岐阜大会の開催を支援していきましょう。

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

協同組合・市民協同組織を支える役職員を対象にした「学びと気づきの場」を上半期は継続し、2期目となる「協同の未来塾」を開講し、名古屋市立大学での寄付講義「現代社会における人と地域のつながり」に協同組合の力を基礎に、今年度も取り組みます。

①各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

2015年度上期まで、これまで行ってきた各生協の職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援の活動を継続します。

②共同購入事業マイスターコース

共同購入事業マイスターコース企画委員会で相談し、2015年度第7期を開講していきます。

③組合員理事ゼミナール

2014年度～2015年度で開講している第3期の後半（6回～10回）を開講します。

④協同の未来塾

「協同の未来塾」は今期から2年計画（2015年度～2016年度）で開講します。

⑤名古屋市立大学での寄付講義

名古屋市立大学で、2015年度上期も、2014年度の経験を活かし、継続して協同組合に関わる寄付講義「現代社会における人と地域のつながり」を開講します。

3. 会員による多様な研究センター活動の支援

(1) ものづくりの思いを語る会の支援

新しくデイリーファームの市田社長をメンバーに迎え、7月に農場見学を行う予定です。ものづくりの思いを語る会としての新たな取り組みに向けて、支援をしていきます。

(2) 第4期研究奨励助成の実施

第4期研究奨励助成を検討し、実施します。

4. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

研究センターの活動を支える情報のさらなる蓄積と発信を、ニュース編集委員会でも検討し、すすめます。

毎月発行のNEWSと増刊・地域と協同の研究センターNEWS「地域と協同」の誌面については、会員の参加による改善を行い、会員活動に役立つことを目指して発行します。

ホームページ、フェイスブックも、より利用しやすくなるように会員の声を聞く活動に取り組みます。

5. 研究センターの組織づくり

2014年度、地域と協同の研究センターで取り組む地域の活動を広げてきましたが、会員の増加につなげることはできませんでした。

2015年度は地域と協同の研究センターへの加入をお誘いする集中月間を設けます。具体的には下記のようなことを準備し、すすめます。

- ①地域と協同の研究センターを知ることができ、会員になることで得ることができることを、パンフレット・ポスター等を作成し紹介します。
- ②お誘いの集中月間を、2015年6月1日～7月31日の期間として取り組みます。
- ③地域と協同の研究センターを知ることができる企画を準備し、開催します。
- ④団体会員、関係団体への地域と協同の研究センター紹介と、会員のお誘いを呼び掛けます。また、地域懇談会・パネルの参加者を通じ、加入を呼び掛けます。
- ⑤2015年度は、研究センターの活動を知ることができる賛助会員のお誘いを重視します。
- ⑥会員の取り組む内容は理事会・常任理事会をはじめとして各地域懇談会世話人会、各パネル（研究フォーラム）世話人会で相談し、すすめます。
- ⑦会員が増える中で、より多彩な地域と協同の研究センター活動に取り組んでいけるようにします。
- ⑧2015年度の加入目標は以下のように考えます。

個人正会員 30名

個人賛助会員 30名

団体正会員 2団体

団体賛助会員

Ⅲ. 2015年度活動予算

2015年3月21日～2016年3月20日

(経常損益の部)	2015年度予算	2014年度実績	予算の内容
I、経常収益の部			
1. 受取会費	20,342,500	20,192,500	
1)個人会費	797,500	737,500	個人正会員+30名
2)団体会費	1,320,000	1,260,000	団体正会員+2団体
3)賛助会費	165,000	135,000	個人賛助会員+30名
4)維持会費	18,060,000	18,060,000	維持会費昨年度同額
2. 受取寄付金	600,000	600,000	
受取寄付金	600,000	600,000	
3. 事業収益	9,770,000	13,682,188	
1)学習研修事業	8,100,000	12,829,616	
2)調査研究交流事業	1,600,000	781,267	研究奨励助成30万円、研究集会50万円を繰り入れ加算
3)情報サービス事業	70,000	71,305	
4. その他収益	231,436	231,116	
1)受取利息	1,436	1,436	
2)雑収入	230,000	229,680	
経常収益合計(a)	30,943,936	34,705,804	
II、経常費用の部			
1. 事業費	22,101,482	23,811,703	
1)人件費	10,814,482	13,518,103	
職員給与	9,069,871	11,337,339	
通勤交通費	480,884	601,105	
法定福利費	1,263,727	1,579,659	
2)その他経費	11,287,000	10,293,600	
諸謝金	2,700,000	1,378,894	研究集会謝金等がプラス
業務委託費	1,520,000	1,505,935	
事務消耗品費	1,030,000	1,098,887	
通信交通費	3,100,000	3,429,060	
会議費	2,500,000	2,442,381	
雑費	437,000	438,443	
2. 管理費	8,817,003	9,381,643	
1)人件費	4,634,779	5,793,474	
役員報酬	0	0	
職員給与・賞与	3,887,088	4,858,860	
通勤交通費	206,094	257,617	
法定福利費	541,597	676,997	
2)その他経費	4,182,224	3,588,169	
厚生費	120,000	113,383	
業務委託費	720,000	717,793	
事務消耗品費	75,000	75,254	
備品費	200,000	57,526	パソコン2台買い替え
研修調査費	420,000	126,876	研究奨励助成30万円
新聞図書費	120,000	125,664	
広報費	150,000	0	パンフレット制作
通信交通費	750,000	753,681	
施設・設備利用料	622,224	622,224	
租税公課	650,000	662,536	
会議費	155,000	159,499	
渉外費	50,000	20,408	諸会費
雑費	150,000	153,325	
経常費用計(b)	30,918,485	33,193,346	
当期経常増減額(a)-(b)	25,451	1,512,458	
(正味財産増減の部)			
III、正味財産増加の部			
正味財産増加の部合計	0	0	
IV、正味財産減少の部			
調査研究交流事業繰入額	800,000	0	研究奨励助成30万円、研究集会50万円を繰り入れ
正味財産減少の部合計	800,000	0	
当期正味財産増減額	-774,549	1,512,458	
前期繰越正味財産額	16,855,726	15,343,268	
次期繰越正味財産額	16,081,177	16,855,726	

第3号議案 定款の一部変更の件

「定款の一部変更」について下記のように提案します。

＜変更理由＞

2011年6月15日に特定非営利活動法人法の改正案が成立し、2012年4月1日から施行されました。それに伴い、地域と協同の研究センター定款の第50条の会計書類について、「収支計算書」を、活動に係る事業の実績を表示する「活動計算書」に変更しました。関わって、定款の規定（法10条第1項第8号及び法27条第3号に係る）について、関連する箇所の用語を変更します。

1. 定款第25条にもとづき、定款第25条を次の通り変更します。

※定款第25条により、定款の変更は総会の議決事項となっています。

変更前	変更後
(権能) 第25条 総会は、以下の事項について議決する。 (1)定款の変更 (2)解散 (3)合併 (4)規約の制定、改廃 (5)事業計画及び収支予算並びにその変更 (6)事業報告及び収支決算 (7)役員を選任又は解任、職務及び報酬 (8)会費の額 (9)借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第52条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄 (10)事務局の組織及び運営 (11)その他運営に関する重要事項	(権能) 第25条 総会は、以下の事項について議決する。 (1)定款の変更 (2)解散 (3)合併 (4)規約の制定、改廃 (5)事業計画及び <u>予算</u> 並びにその変更 (6)事業報告及び <u>決算</u> (7)役員を選任又は解任、職務及び報酬 (8)会費の額 (9)借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第52条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄 (10)事務局の組織及び運営 (11)その他運営に関する重要事項

2. 定款第25条にもとづき、定款第41条を次の通り変更します。

変更前	変更後
(資産の構成) 第41条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。 (1)設立当初の財産目録に記載された資産 (2)会費 (3)寄付金品 (4)財産から生じる <u>収入</u> (5)事業に伴う <u>収入</u> (6)その他の <u>収入</u>	(資産の構成) 第41条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。 (1)設立当初の財産目録に記載された資産 (2)会費 (3)寄付金品 (4)財産から生じる <u>収益</u> (5)事業に伴う <u>収益</u> (6)その他の <u>収益</u>

3. 定款第25条にもとづき、定款第42条を次の通り変更します。

変更前	変更後
(資産の区分) 第42条 <u>この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産のみとする。</u>	(資産の区分) 第42条 <u>削除</u>

4. 定款第25条にもとづき、定款第46条を次の通り変更します。

変更前	変更後
<p>(事業計画及び収支予算)</p> <p>第46条 この法人の事業計画及びこれに伴う<u>収支予算</u>は、代表理事が作成し、総会の議決を経なければならない。</p>	<p>(事業計画及び予算)</p> <p>第46条 この法人の事業計画及びこれに伴う<u>予算</u>は、代表理事が作成し、総会の議決を経なければならない。</p>

5. 定款第25条にもとづき、定款第47条を次の通り変更します。

変更前	変更後
<p>(暫定予算)</p> <p>第47条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ<u>収入支出</u>することができる。</p> <p>2 前項の<u>収入支出</u>は、新たに成立した予算の<u>収入支出</u>とみなす。</p>	<p>(暫定予算)</p> <p>第47条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ<u>収益費用</u>を講じることができる。</p> <p>2 前項の<u>収益費用</u>は、新たに成立した予算の<u>収益費用</u>とみなす。</p>

6. 定款第25条にもとづき、定款第53条を次の通り変更します。

変更前	変更後
<p>(定款の変更)</p> <p>第53条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の3分の2以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する<u>軽微な事項</u>を除いて所轄庁の認証を得なければならない。</p>	<p>(定款の変更)</p> <p>第53条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の3分の2以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する<u>事項を変更する場合は所轄庁の認証を得なければならない。</u></p>

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター 2014年度通常総会議事録

1. 日 時 2014年5月30日(金) 開会 10時30分 閉会 12時05分

2. 会 場 生協生活文化会館4階ホール

3. 出席者(議案採決時の出席数)

<内訳>

	出席者	実出席	委任	書面表決	正会員数	出席率
個人正会員	165	64	2	99	234	70.5%
団体正会員	12	8	0	4	16	75.0%
	177	72	2	103	250	70.8%

4. 審議事項

- (1) 第1号議案 2013年度事業報告と決算承認の件
- (2) 第2号議案 2014年度事業計画と予算決定の件
- (3) 第3号議案 第三期中期目標と計画(2014年度～2016年度)の件
- (4) 第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件
- (5) 第5号議案 定款の一部変更の件

5. 議事経過の概略及び議決の結果

(1) 開会

定刻となり司会者の河原洋之常任理事が、総会の出席者について、開会時点で168名(実出席66名、書面表決者100名、委任2名)となり、5月30日現在の正会員250名(個人正会員234名、団体正会員16名)の過半数126名に達していることを報告し、定款29条に基づき、2014年度通常総会を開会することを宣言した。

(2) 議長選出及び議事録署名人の選任と書記の任命

司会者が議長の選出方法について諮り、理事会から推薦することにつき異議なく承認されたので、理事会が推薦した下里玉美理事、田所登代子理事を紹介し、満場一致をもってこれを承認し、本人も了解して議長の任についた。議長が議事録署名人に川元チエ子会員、服部ゆかり会員を提案し、異議なく選任された。つづいて議長は書記に研究センター事務局の伊藤小友美会員を任命した。

(3) 代表理事あいさつ

総会の開会にあたり、川崎直巳代表理事が、次のようなあいさつを行った。

第14回通常総会の開会にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。地域と協同の研究センターもNPO法人化をして、今年で15年目を迎えることになりました。皆様のご尽力と、ご支援により、ここまで発展させることができたことをうれしく思っております。今日の総会では、2014年度から2016年度までの中期計画を検討し決定いただくことと、新しい役員体制を決定していただくことが大きな役割になっています。よろしくお祈りします。

私は6年間、この研究センターの代表理事を務めさせていただきました。目指したことがあり、それは、NPO法人化する前から、長い歴史を持つ研究センターが、愛知県、そして名古屋市を中心に発展してきたことを、三重や岐阜の地域に広げていこうとしてきたことです。着実にその方向がつかれつつあることをうれしく思っております。

その上で三つ思っていることがあります。一つは団体会員、個人会員、参加されている皆様自身が、楽しく、笑顔で、元気がでる研究センターであることを大切に、団体や個人の皆様が、地域で協同の活動を広げようと、すばらしい事例をつくってみえ、その事例紹介を通じて、発展の力にしてきたことです。二つ目は、研究センターは

生協やJAさん初めとして、多くの協同組合、団体のみなさんの活動参加で支えられており、研究者の皆様には大きなお力添えをいただき、そんな組織や個人の皆様の力が、しっかり発揮されるような運営や仕組みをつくっていかないといけないと心がけてまいりましたが、少しずつ形になりつつあることです。三つ目に、協同組合を発展させていく上で、人が元気になり、中心になる人が広がっていくことが欠かすことができないということです。理事の皆様や、協同組合に関わる職員の皆様が研究センターに参加され、力を持ち、元気を出して活動していただけるそんな研究センターになっていくといいと考え、重視してきました。

まだまだ緒に就いたばかりですが、方向付けとしては間違っていないかと思っております。これからの活動や取り組みによって形ある取り組みにしていけることを期待したいと思います。今日一日よろしくお願ひします。

(4) 議案の審議及び結果

向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案2013年度事業報告と決算、第2号議案2014年度事業計画と予算、第3号議案第三期中期目標と計画(2014年度～2016年度)、第4号議案顧問委嘱承認、第5号議案定款の一部変更について提案があった。また監事を代表して中山好治監事が監査報告書に基づき監査の報告をした。

次に理事会からの議案提案に基づき、会員からの質疑、意見発表が行われた。

加藤和広会員：昨年の総会に参加し、協同組合に関する寄付講義を大学でできるようにならないかと私が発言しました。名古屋市立大学で開催できるようになりお礼を申し上げます。若い方たちに、協同組合とはどういうことか、協同するということはどういうことか、その現場を知らせることが大切ではないかと思ひます。協同組合に関する寄付講義を開講し、学生が講義を聞いて、最終段階でボランティアの募集をしたらどうかと思ひます。協同組合の現場を座学で学び、ボランティアで実践していただく中で、協同体験をしていただき、協同の大切さ、協同組合の役割を知って広げていくことができるようになればと期待します。

幸松孝太郎会員：食と農パネルの世話人をしていす。昨年は二つの活動に取り組みました。一つは7月13日に、荒井先生を講師に農業の学習を開催し、農業は永続することが大事ではないかということで、まずは集落営農を中心に学ばせていただきました。顔とくらしが見える関係をつくろうと、学習会で学んだことから、現場に行つて学習しようと、白川町へ行って学ぶ機会を持ちました。

熊崎辰広会員：地域福祉を支える市民協同パネルの活動を紹介します。昨年は年間6回開催しました。高齢者生協の話し、配食ボランティアの月木会の活動、愛知あんきネットの活動について聞いてきました。同時に、格差社会における社会的排除という課題について学んでいます。今年フィールドワークをしようと相談しています。パネルではミニ冊子を発行しています。

飯村初美会員：環境パネルの報告をさせていただきます。2013年度は、三重でイヌナシの自生地を見学し、5月には食品残渣を使った肥料づくりに取り組む「バイオプラザなごや」の施設見学に行きました。7月には岐阜の「アライダシ原生林エコトレッキング」に取り組みました。2014年度は、エネルギーについて考えていこうと、先日は碧南の火力発電所を見学し、次回は武豊の発電所の見学です。こういう見学会をして、自分たちが何を残していくべきか考えていきます。

野田妙子会員：三河地域懇談会の実行委員をしていす。第10回三河地域懇談会を11月16日・17日と開催しました。昨年の秋は、豊川でB1グランプリが開催され、隊長の笠原さんをお呼びして話を聞くことになりました。B1グランプリにつながるまでの話や、市民がボランティアで参加する地域の取り組みだったことなど学びました。JAと地域のつながり、穂の国の歴史、東三河の戦跡を通して平和を語り継ぐ報告等も聞きました。翌日は、豊川稲荷の見学をしました。

福井千代子会員：「ぎふを知ろう、つながろう」という報告書をつくりました。2012年度から5回、岐阜の地域を知ろうと行ってきました。岐阜の中山間地に行つていすますが、過疎化、高齢化がすすむ中、地域の活性化をしようとがんばっている方がたくさんみえ、訪問してきました。そこで生活している方は、不便で厳しいだろうと思つて行きましたが、みんなで助け合つて、支え合つてくらししているから楽しいと言われ、今後、どう変わつていくか、見ていきたいと思ひます。

川元チエ子会員：「三重のつどい」の世話人をしていす。昨年8月には、獣害に関わつて、三重では有名なミューゼボンビバンの出口シェフを講師に鹿肉を使った料理講習会を開催しました。9月には、テレビドラマで話題に

なった高校生レストラン「まごの店」に世話人で行って来ました。今年の1月には、伊賀市で取り組まれている菜の花プロジェクトに関連して、大山田農協公社を視察し、午後からは鹿肉の処理施設「いがまち山里の幸利用組合かじか」に行きました。研究センターの目標の一つである「地域を軸にした活動」が、三重でも広がっていくことを期待します。

河原洋之会員：「研究フォーラム職員の仕事を考える」の活動をやってきました。毎月1回世話人会を開催していますが、2013年度は3人のセンター長、支所長の話聞いてきました。ヒアリングを実施した3つのセンターでは、みんなで課題を達成するというテーマをやってきました。先回の世話人会ではヒアリングしたマネジメントの内容を分析しました。まとめましたら、報告書で会員のみなさんには報告したいと思っています。

発言を受け、向井忍専務理事より理事会としてのまとめが行われた。

8名からの、積極的な発言ありがとうございました。

加藤会員からは、協同組合に関わる「寄付講義」が多くの大学で開講できるようにということでした。私たちの実践は、意味あるものたくさんあり、それが広げられればと思います。幸松さんからは「食と農パネル」の取り組みで、永續できる農業を考えていきたいということでした。ぜひその成果を学びたいと思います。熊崎会員からは、「地域福祉を支える市民協同」のパネルの紹介がありました。より多くの方の参加で、地域で市民が支えていく福祉について、内容をつくっていただければと思います。「環境パネル」では、エネルギー問題、環境問題は、社会全体の構造に関わることです。引き続き取り組んでいくことができればと思います。「みかわ地域懇談会」では、10回の懇談会の積み上げを、先進をきって積み上げていただいたものです。地域でのつながりが、研究センターを通じてできるということが、意義があると思います。「岐阜地域懇談会」の取り組みでの学びや気づきは、「当事者が地域でつくっていく」という考え方の基礎になることだと思います。「みえのつどい」の発言がありましたが、「地域を軸にした活動が広がることを期待したい」ということでした。「研究フォーラム職員の仕事を考える」での取り組みからは、マネジメントのあり方を考え、生協の中心になっているひとりひとりの力になる場を広げているということでした。ひとりひとりの職員が力を発揮していただけるということは、研究センターの出発からの課題であり、今後とも中心であるかと思えます。いずれも貴重な提案として、日常の中で活かせるようにしたいと思います。以上、まとめとします。

以上をもって討論を終え、採決に入ることを議長が宣言した。

第4号議案の理事・監事の選出について、役員選出管理委員の吉田法子理事から、第7回理事会で総会開催日を早めた関係で、任期中の役員を辞任を受け、新たに役員を選出することとなり、地域ごとの定数を決め、立候補受付の告示をしたところ、理事会からの推薦者として35名の理事立候補と2名の監事立候補があったと報告された。続いて役員選考委員の熊崎辰広会員から、候補者名簿に基づき立候補者の紹介があり、投票を行い、過半数の得票をもって選出されたものとする選出方法の説明があつて、投票を行った。

投票の結果、役員選出管理委員が、候補者全員が過半数の支持を得て理事及び監事に選出されたことを宣言した。次の者が選出された理事・監事である。○印の者は新任の理事・監事である。

理事	朝倉 美江	荒井 聡	○石橋 一郎	伊藤 佐記子	○岩橋 良直
	○牛田 清博	大島 三津夫	岡田 祐成	小木曾 洋司	兼子 厚之
	川崎 直巳	河原 洋之	○上林 美也子	黒川 富子	○駒井 義明
	○近藤 宏一	○近藤 充代	○坂本 龍雄	下里 玉美	竹内 輝彦
	田所 登代子	田邊 準也	○長井 知津代	○夏目 有人	成瀬 幸雄
	西川 幸城	野田 輝己	橋本 吉広	平野 哲至	向井 清史
	向井 忍	○村上 一彦	○森島 和子	○山村 まさこ	幸松 孝太郎
					以上 35名
監事	○徳升 孝司	○新川 恵美子			以上 2名

被選任者は、席上いずれもその就任を承諾した。

向井専務理事より提案のあった顧問の委嘱については、拍手でもって承認された。次の者が顧問である。

顧問	高橋 正	野原 敏雄	中嶋 好夫	水野 隼人	以上 4名
----	------	-------	-------	-------	-------

議長が第1号議案、第2号議案、第3号議案、第5号議案について、それぞれ挙手で採決を行い、それぞれ圧倒

的多数の賛成で可決されたことを宣告した。採決結果は次の通りであった。

第1号議案	2013年度事業報告と決算承認の件	反対0	保留1	賛成	明らかな多数
第2号議案	2014年度事業計画と予算決定の件	反対0	保留1	賛成	明らかな多数
第3号議案	第三期中期目標と計画(2014年度~2016年度)の件	反対0	保留2	賛成	明らかな多数
第5号議案	定款の一部変更の件	反対0	保留1	賛成	明らかな多数

すべての議案の議決が終了したことを議長が宣言し、議長を退任した。司会の河原洋之常任理事が、通常総会の閉会をつけ、12時5分閉会した。

上記の議事を明確にするため、ここに本議事録を作成し、議長及び議事録署名人において、次に署名押印する。

2014年5月30日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2014年度通常総会

議長 下里 玉美 印

議長 田所 登代子 印

議事録署名人 服部 ゆかり 印

議事録署名人 川元 チエ子 印

研究センターニュース特別号

特集 **2015年度通常総会議案**

(総会開催日 2015年5月30日)

発行日 2015年5月8日

発行所 特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター
代表理事 西川幸城

〒464-0824

名古屋市千種区稲舟通1-39

電話 052-781-8280 Fax 052-781-8315